

「親」をまなぶ・「親」をつたえる 1-3 接する

目的

近い将来に親となり家庭を築く高校生、小・中学生世代等や PTA 等の保護者、教員等を対象に、ワークショップを通じて、命の大切さや親になる気持ち、親子のコミュニケーションのあり方を考えるきっかけをつくる。

内容

「赤ちゃん」についてイメージを出しあい、一人ひとりに手渡された卵を「ひとつの命」とみため、命の大切さや親になる気持ちをみんなで考え、発表をしていただきます。

ワークショップの感想

小学生の感想から

- ・親がやれることや、育て方によって、子どももそれを見て育つ、ということが知れてよかった。まだ子どもだけど、今のうちから、将来のことが知れたので、ぼくが親になったときは、子どもが自分を見て育ち、いい人になるように、自分がすばらしい人間になろうと思いました。(6年生)
- ・初めてお母さんの気持ちになって、お母さんは、心配したり、安心したり、大変なんだなと思いました。私がお母さんになったら私のお母さんのように大切にやさしく育てようと思いました。(4年生)
- ・すごく親のあいじょうがわかった。そだて方がわかった。お父さんになったみたいでたのしかった。(2年生)

中学生の感想から

- ・今日の授業で赤ちゃんをだっこしたとき、思っていたより重いな・・・と感じた。卵がわれないように大事に手で温めていたら自分のお母さんやお父さんも大切に育ててくれて、今自分がここにいるんだと実感してありがとうと感謝を伝えたくなった。(中学1年生)

高校生の感想から

- ・最初の赤ちゃんの授業で、親が自分を育ててきたときの苦勞を少しは知れた気がする。最後の詩を読んで、自分が今までどれだけ親に愛されてきたのかを感じることができた。また、自分も自分の親のように自分の子どものことを愛せる人間になりたい。(高校1年生)

担当教諭の感想から

- ・「生命について考える」というテーマは生徒にとって学校で教科書を使って学ぶ内容とは異なるアプローチで新鮮だったと思う。普段の表情と違う生徒もあり、日常の生活ではあまり感じたことのない感情を持つことができたと思う。
- ・年齢的にまわりの目を気にしたり、指示通りに行動するのが照れくさかったようだが、各々感じとるものがあつたと思う。

卵のワークショップの一連の流れ (45分授業の場合)

スタート (0~5分)

- ・ファシリテーター自己紹介
- ・ワークショップ

ワークショップの4つの約束
時間・参加・守秘・尊重



みんなで“愛”を感じあえるように・・・
Listen
Open
Voice
Enjoy
頭文字をとって“LOVE”

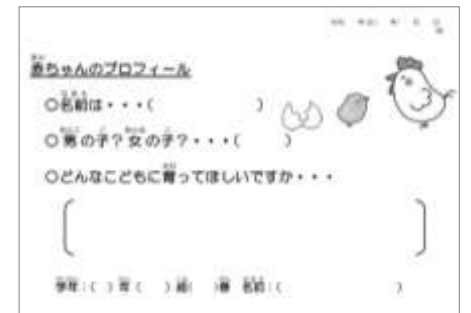
ウォームアップ (5~15分)

- ・赤ちゃんについて思い浮かぶことを書く
- ・思いを出し合う
- ・赤ちゃんを体感する



卵のワーク (15~40分)

1. 卵をひとつずつ手渡す
※卵をひとつの命(自分の赤ちゃん)だと思えるように、大切に
2. 赤ちゃんのプロフィールを考える
3. 卵にペイントする(顔・名前)
4. 1分間集中して大切に守る(温める)
5. どうしても外出しなければならない用事ができたので、隣の人に赤ちゃんを預かってもらう ※その時の声かけは、思いは…? 隣人は二人の赤ちゃんを抱える ※その時の思いは…?
6. 元に戻り赤ちゃんを受取る ※その時の声かけは、思いは…?
7. 預かった人に用事ができたので、隣の人に預ける
8. 元に戻り赤ちゃんを受取る
9. 卵のワークシートを配布、思いを書く



気づき・ふりかえり (40~45分)

- ・卵のワークシートから・・・思いをだしあう

赤ちゃんに接するときと親や友人に対するとき共通する大切なものはなにか

- ・ファシリテーターからのメッセージの共有

幼い者への思い 親への思い 他者への思い
いのちの大切さ 思いやり 愛・尊重

